記者発表資料

平成２４年１１月５日
東 北 地 方 整 備 局

平成24年度「人事院総裁賞」受賞の決定について

～東北地方整備局が受賞することが決定しました。

このたび、東日本大震災時の東北地方整備局の取り組みが評価され、平成24年度「人事院総裁賞（職域部門）」を受賞することが決定しましたので、お知らせします。

記

１．受賞者
「職域部門」東北地方整備局（くしの歯作戦啓開チーム、航路啓開チーム）

顕彰理由

平成23年３月11日に発生した「東日本大震災」は大津波を伴い、東日本太平洋沿岸を中心に広い範囲において未曾有の被害をもたらしました。大津波による家屋や自動車・船舶などが大量のがれきとなり道路や港湾を塞いだため、東北地方整備局の各職員は、余震や津波の危険性のある中、道路や港湾の啓開を短期間で完了させ、人命救助や支援物資の早期輸送を可能とし、また産業の早期復旧の生命線を確保したことが公務の信頼の向上に寄与したとされました。

主な活動

≪くしの歯作戦啓開チーム≫

東北地方整備局では地震発生直後から、第１ステップ（内陸の東北自動車道と国道４号の縦軸ラインの確保）、第２ステップ（内陸から沿岸への横軸ラインの確保）、第３ステップ（太平洋沿岸の国道６号と45号の路線を確保）の「くしの歯作戦」を進めました。

余震や大津波警報が続く中、オイルタンク等の危険物も多くあったことに加えて、がれきの中に被災者がいないか慎重に確認しながらの作業は困難を極めましたが、警察、地元自治体等とも調整を図り、「一人でも多くの命を助けるために」との思いで昼夜を問わず作業を進め、３月15日までに横断軸16ルートのうち15ルートを確保し、さらに３月18日には国道６号と45号の97％について啓開を終了させ、緊急車両の通行や支援物資の輸送ができるようになりました。

≪航路啓開チーム≫

海上ルートでは津波注意報解除の翌朝から啓開作業を開始。津波被害を免れた地元４船団を優先啓開港（宮古港、釜石港、仙台塩釜港）に投入するとともに、全国から作業船団を吹雪舞う悪天候を突いて東北に集結させました。

船の燃料不足、浮遊がれき、海中の濁り、余震に伴う津波の恐れ等を克服しての作業でありましたが、この結果、3月16日の釜石港を皮切りに、23日までに被災した主要９港全てで船舶による緊急物資の搬入が可能となりました。特に、仙台塩釜港では21日から、八戸港では25日から油タンカーの入港が始まり、ガソリン不足等の解消に繋がりました。

２．人事院総裁賞とは

多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることを寄与したと認められる国家公務員又はその属する職域を顕彰するため、昭和６３年に人事院創立４０周年を記念して創設され、今回２５回目。

３．授与式

今後、人事院主催により授与式が行われる予定。また、式後、受賞者は天皇皇后両陛下の御接見を賜る予定。

４．参考

詳細につきましては、国土交通本省報道発表資料を御覧下さい。

〈http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000095.html〉

発表記者会:宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

問 い 合 わ せ 先

国土交通省東北地方整備局
仙台市青葉区二日町９－１５　　代表 022-225-2171
総務部人事課長　　深澤　和晃（内）2251